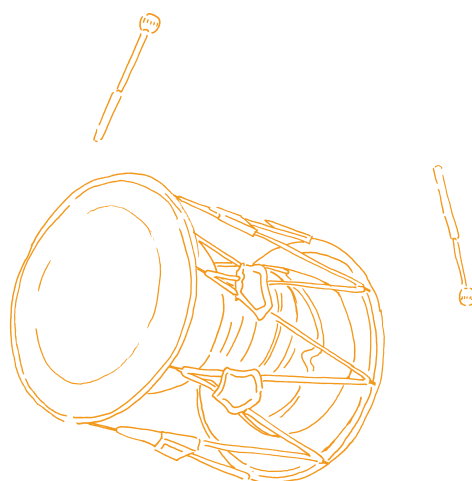




REAL
PUBLICITY
FOR ARTS

TOA 音楽と教育の意識調査
2010



REAL PUBLICITY FOR ARTS 2010

発行にあたり

April 2010

Project Real Publicity for Arts

主催 || TOA 株式会社 社会貢献・メセナ担当：吉村真也

2007年の調査を開始以来4年間、私たちは、常に大きな環境変化の中にありました。不況の到来、労働環境の変化、そして政権交代。社会構造そのものが大きく変化し、これまでの価値観が揺らぎ続けた4年間、その中でもとりわけ今年は、これまでで最も厳しい経済環境下で調査が実施されることになりました。

2008年の調査では、子どもたちの「生きる力」として保護者が望むのは、「心の豊かさ」「コミュニケーション力」が上位であり、それらを育む教科として「音楽」への期待が高いことが明らかになりました。この調査の実施後、世界は100年に1度と言われる不況に直面します。不況は保護者の意識にどんな影響を与えるのか。このことを明らかにすべく、翌2009年にも同じ項目を継続調査した結果、驚くことにほぼ同じ結果を得ることができました。経済環境の変化に加え、子ども達の学力低下が騒がれ、基礎知識・技能の習得の必要性がクローズアップされる環境にあつてなお、子どもたちの豊かな心の成長を願う保護者の思いが変らなかったことは、「音楽の力」を信じるものにとって、大きな励みとなりました。

では、さらに環境変化が進んだ今年においても、同じ結果を得られるでしょうか。また、保護者の思いは、現実の環境下でどの程度実現できているのでしょうか。こうしたことを探るため、今年も「生きる力」の継続調査を行うとともに、経済環境と「音楽と教育」の関係にスポットを当てた調査を行います。また、過去3年間の調査結果との対比によって、保護者の意識の「変化」にも着目してみたいと思います。

過去の調査内容は、下記URLからダウンロード可能です。

<http://www.toa.co.jp/mecenat/document.htm>

TOA 音楽と教育の意識調査 2010 || 調査概要

調査対象 || 全国の男女 500名 男性 250名、女性 250名
20代：100名 | 30代：100名 | 40代：100名 | 50代：100名 | 60代：100名
下の子どもの年代と性別 || 未就学男子：94名 | 未就学女子：97名 |
小学校男子 30名 | 小学校女子 30名 | 中学校男子 14名 | 中学校女子 25名 |
高校男子 13名 | 高校女子 16名 | その他 181名

調査方法 || Web 調査

調査期間 || 3月2日 | 火 | ~ 3月3日 | 水 |

本調査は、社会学の専門家によるアンケート項目の設計、また、子どもの教育と芸術に関する専門NPOの監修のもと、各分野の専門スタッフによる客観的な視点から実施されています。

TOA グループの社会貢献活動

—それぞれの世代に、それぞれのカタチで。「TOA Meet! Music! Concept」—

2007年度の自社調査によると、保護者の約8割が「企業が学校教育の支援活動を行うこと」を「望ましい」と考えています。防犯、福祉など、あらゆる生活環境において「地域」の果たす役割が再認識されている昨今、地域の一員である企業に対しても、教育に相応の役割を果たすことが求められています。教育現場と手を取りあつて、自社ならではの個性的な手法で教育に貢献することは、もはや企業の社会的責任だと言えます。

TOAグループは、業務用音響機器と映像機器の専門メーカーとして培ってきた技術や自社資源を有効活用し、自主企画として様々な音楽にまつわる社会貢献活動を展開。特に次世代育成活動に力を注ぎ、次代を担う子ども達に音楽の楽しさを伝え続けています。

子ども達の成長の過程には、それぞれの世代に、それぞれのカタチでの音楽との出会いがあります。TOAでは、「TOA Meet! Music! Concept」と題し、子ども達の成長にあわせた4つの音楽プログラムと、1つの調査プログラムを展開しています。

小中学生を対象とした「TOA Music Workshop」では、音楽との最初の出会い、仲間とともに音楽に参加する喜びや楽しさを。中学生を対象にした「トライやる・ウィーク」シリーズでは、作品を創作し発表するという、音楽を創る喜びを。中高校生を対象にした「神戸JAZZ」では、ステージスタッフなどの裏方も含めた音楽のプロと接し、音楽で生きる世界への扉を開きます。そして、専門学校生・大学生を対象とした「匠ワークショップ」では、プロの技を伝え、明日の音楽の担い手を育成します。

また、調査プログラム(本冊子)では、4つの音楽プログラムの社会的背景やニーズを探る目的で、「音楽と教育」に関わる親世代の意識を調査。結果は広く公表するとともに、自社企画の立案や、さらなる内容の充実に役立てています。

音楽と接することで、子ども達に自身の音楽性や表現力を再認識してもらいたい。そして、今まで知らなかった「新しい自分」に出会ってもらいたい。そのためにできることを、私たちは続けていきたいと思えます。TOAが伝えたいのは、子ども達の可能性。これまで、これからも、TOAは音楽との素晴らしい出会いをサポートしていきます。

[専門学校・大学生] プロの技を学ぶ

匠 Workshop

[中学生～高校生] プロへの道しるべ

神戸JAZZ

[中学生]

音楽を創る

トライやる・ウィーク

[小学生～中学生]

音楽と出会う

TOA Music Workshop

TOA
Meet! Music!
Concept

TOA社会貢献宣言

TOAグループは、社会から信頼される「良き企業市民」として、多様な社会問題の解決に向けた取組みを自発的に行い、社会に貢献します。自社資源を有効に活用し、本業である「音と映像」との関連性を強く意識した独自の活動を行うことで、社会と共に発展していく「かけがえない企業」になることを目指します。

目次 CONTENTS

02 TOA 音楽と教育の意識調査 2010 発行にあたり
TOA 株式会社 || 吉村真也

03 TOA グループの社会貢献活動

04 アンケート調査結果

10 民の力で支える、子どもたちの音楽体験 ~調査結果によせて~
NPO 法人子どもとアーティストの出会い || 理事長：井手上春香

11 募集のご案内 || TOA Music Workshop 2010

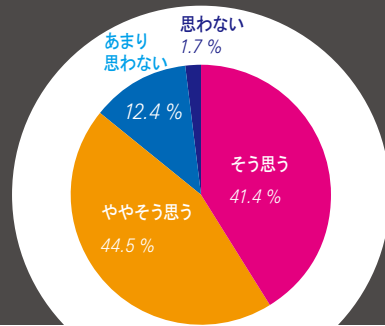
12 TOA Music Workshop の歩み

子どもに芸術文化を生で体験させたい人は約9割。実際に体験させた人は音楽は4割、伝統芸能では2割を下回る。

希望とのギャップが大きく、二極化の傾向も明らかに
学校以外で、子どもに音楽ホール、劇場、美術館などで芸術文化を実際に生で体験する機会を与えたいと思う親は86%にのぼるが、実際に体験の機会を与えた親は、最も多かった「音楽」でも36%、「伝統芸能」では18%、芸術文化平均では28%にとどまり、希望とのギャップが明らかになった。子どもに芸術文化に接する機会を与えた親は、更に機会を増やした人が多く、厳しい景気環境の中、家庭の経済事情の二極化が進んでいる状況が見て取れる。

学校以外で、お子さんに音楽ホール、劇場、美術館などで芸術文化を実際に生で体験する機会を与えたいと思いますか？ N=290 (中学生以下の子どもがいる親の回答)

	計	
そう思う	120	41.4%
ややそう思う	129	44.5%
あまり思わない	36	12.4%
思わない	5	1.7%
合計	290	100%

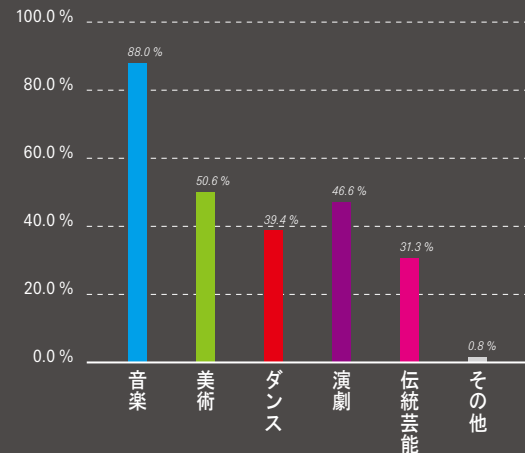


お子さんに経験する機会を与えたい芸術文化のジャンルは以下のどれですか？ N=249 (複数回答)

	計	
音楽	219	88.0%
美術	126	50.6%
ダンス	98	39.4%
演劇	116	46.6%
伝統芸能	78	31.3%
その他	2	0.8%

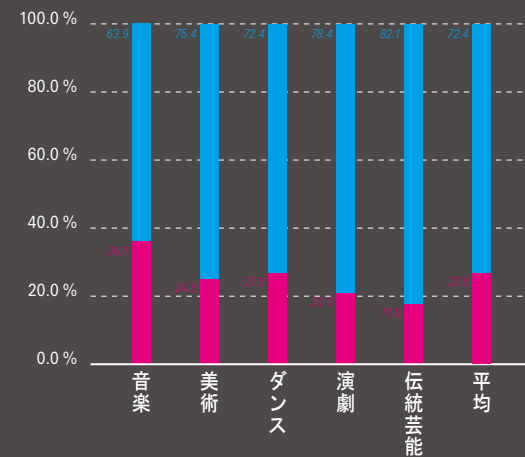
CHECK!

「音楽」は子どもの年齢に関わらず多い。「演劇」と「伝統芸能」は子どもの年齢が上がるほど高まる傾向がある。



この1年間で、お子さんに実際にそういった機会を与えましたか？ N=249

	与えた	与えていない	合計
音楽	79 (36.1%)	140 (63.9%)	219
美術	31 (24.6%)	95 (75.4%)	126
ダンス	27 (27.6%)	71 (72.4%)	98
演劇	25 (21.6%)	91 (78.4%)	116
伝統芸能	14 (17.9%)	64 (82.1%)	78
平均	176 (27.6%)	461 (72.4%)	637



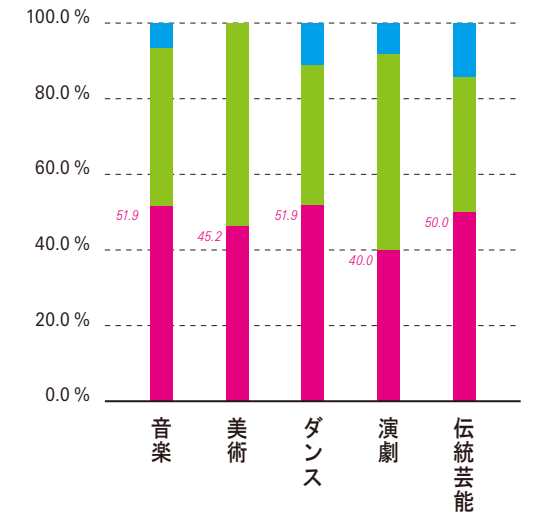
参考:実際に芸術文化の体験を与えた親のみの数字

学校以外でお子さんが芸術文化に接する機会は1年前と比べて増えましたか、減りましたか？ N=102

	増えた	変わらない	減った
音楽	41 (51.9%)	33 (41.8%)	5 (6.3%)
美術	14 (45.2%)	17 (54.8%)	0 (0.0%)
ダンス	14 (51.9%)	10 (37.0%)	3 (11.1%)
演劇	10 (40.0%)	13 (52.0%)	2 (8.0%)
伝統芸能	7 (50.0%)	5 (35.7%)	2 (14.3%)

CHECK!

子どもに芸術文化に接する機会を与えた親は、更に機会を増やした人が多く、「音楽」「ダンス」「伝統芸能」では5割を超えた。



「増えた」理由を下記の選択肢からお選びください。 N=52

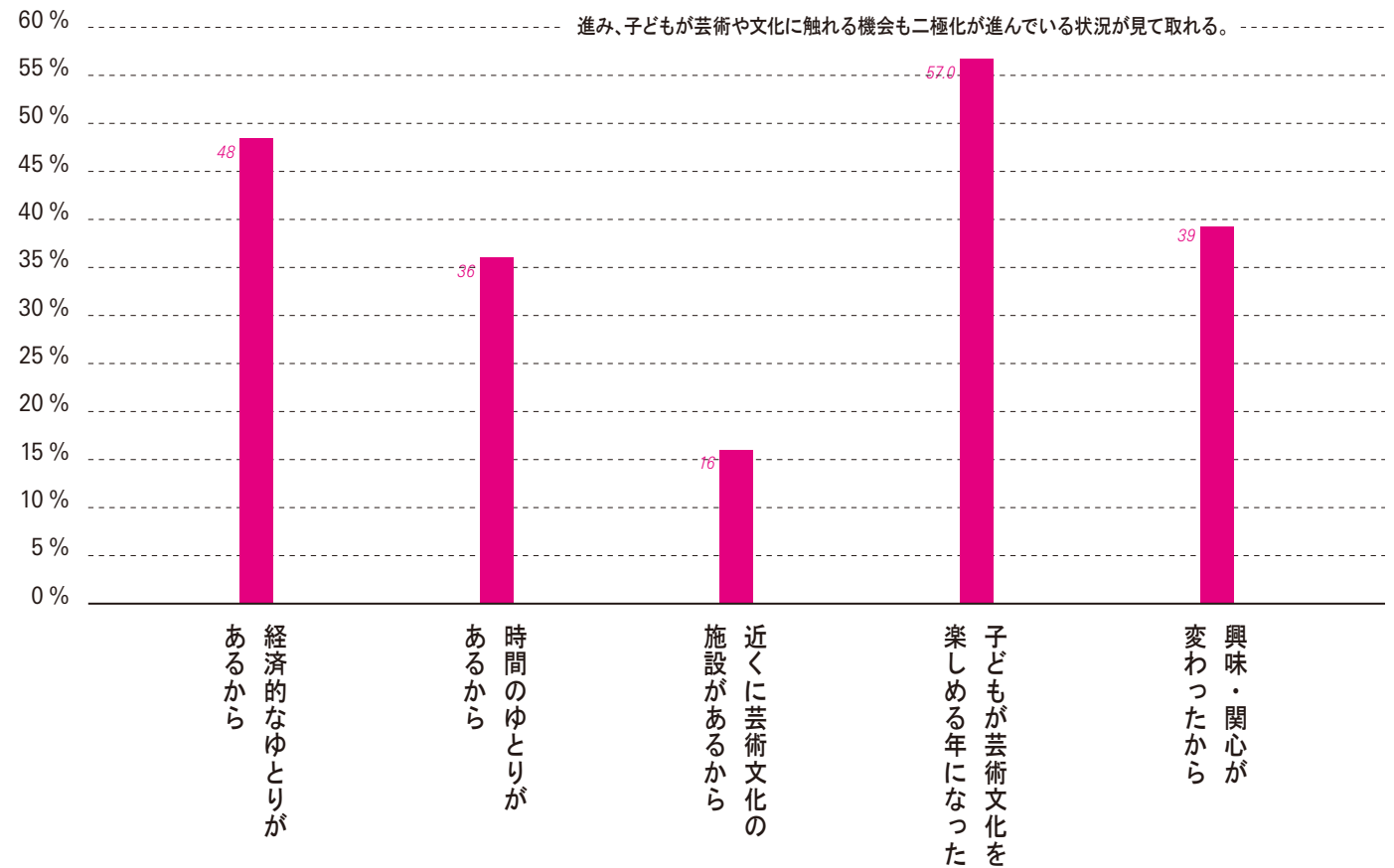
実際に子どもに芸術文化の体験の機会を与えた親で、学校以外で子どもが芸術文化に接する機会を増やした親のみの数字

	経済的なゆとりがあるから	時間のゆとりがあるから	近くに芸術文化の施設があるから	子どもが芸術文化を楽しめる年になった	興味・関心が変わったから	合計
音楽	21 (48%)	16 (36%)	7 (16%)	25 (57%)	17 (39%)	44
美術	9 (50%)	7 (39%)	8 (44%)	8 (44%)	6 (33%)	18
ダンス	12 (75%)	6 (38%)	3 (19%)	6 (38%)	6 (38%)	16
演劇	5 (45%)	1 (9%)	1 (9%)	4 (36%)	1 (9%)	11
伝統芸能	5 (71%)	1 (14%)	1 (14%)	2 (29%)	0 (0%)	7

CHECK!

音楽に接する機会が増えた理由

子どもに芸術文化に接する機会を増やした親の理由として、「子どもが芸術文化を楽しめる年になった」「経済的なゆとりがあるから」と答えた人が多かった。厳しい景気環境の中、家庭の経済事情の二極化が進み、子どもが芸術や文化に触れる機会も二極化が進んでいる状況が見て取れる。

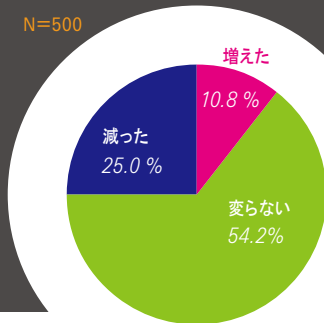


文化・芸術支援、「国」よりも「企業」への期待が相対的に高まる。国に期待する人は3年前より7ポイントダウン、企業への期待も微減だが依然として8割を超える。

景気低迷の中、芸術分野に関する支出を減らした人は4人に1人だが、子どもが音楽に触れる機会を望む親は増加
 景気悪化の影響を受けて、国や地方自治体が文化・芸術を支援することは望ましいと考える人は3年前より7ポイント減少した。企業が文化・芸術を支援することは望ましいと考える人も3ポイント減少したが、82%の人が望ましいと答え、文化・芸術活動の支え手として相対的に企業への期待が高まりつつある状況が明らかになった。厳しい時代を乗り切るために、芸術文化の支出を減らした人は4人に1人になるが、授業や事業外で子どもが音楽に触れる機会を望む親は増加した。

芸術文化(CDやDVDなどの購入を含む)に関する支出の総額は1年前に比べて増えましたか?減りましたか? N=500

	計	
増えた	54	10.8%
変わらない	321	64.2%
減った	125	25.0%

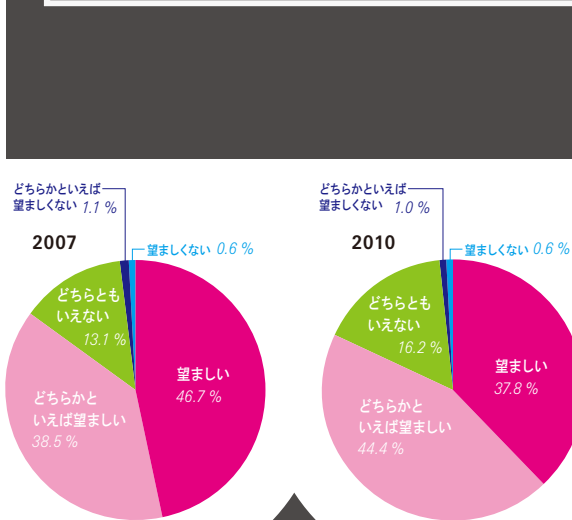


国や地方自治体が文化・芸術を支援することは望ましいと思いますか?

	望ましい	どちらかといえば望ましい	どちらともいえない	どちらかといえば望ましくない	望ましくない	合計					
2007年	286	45.0%	250	39.3%	80	12.6%	15	2.4%	5	0.8%	636
2010年	174	34.8%	215	43.0%	94	18.8%	11	2.2%	6	1.2%	500

CHECK!

事業仕訳の影響が、国や自治体が文化・芸術を支援することが「望ましい」と考える人が10ポイント減少、「どちらかといえば望ましい」を含めても7ポイント減となった。



企業が文化・芸術を支援することは望ましいと思いますか?

	望ましい	どちらかといえば望ましい	どちらともいえない	どちらかといえば望ましくない	望ましくない	合計					
2007年	297	46.7%	245	38.5%	83	13.1%	7	1.1%	4	0.6%	636
2010年	189	37.8%	222	44.4%	81	16.2%	5	1.0%	3	0.6%	500

CHECK!

企業が文化・芸術を支援することが「望ましい」と考える人は9ポイント減少したが、「どちらかといえば望ましい」を含めると3ポイント減にとどまった。

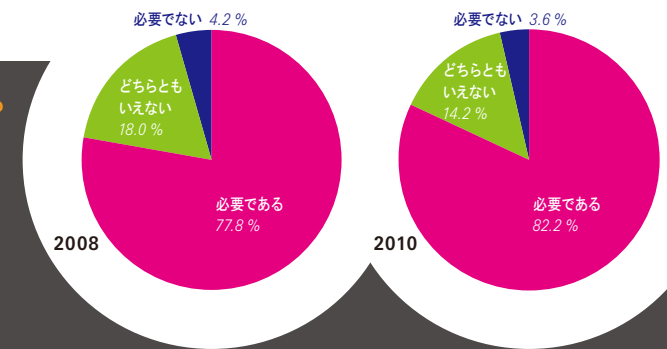
あなたのお子さんにとって、学校での音楽の授業が必要だと思いますか?

N=500

	必要である	どちらともいえない	必要でない	合計			
2008年	389	77.8%	90	18.0%	21	4.2%	500
2010年	411	82.2%	71	14.2%	18	3.6%	500

CHECK!

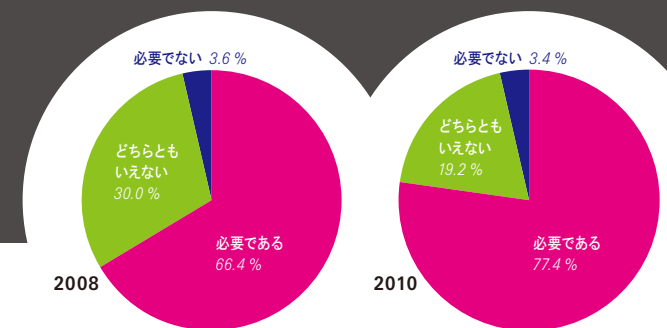
授業も、授業以外でも、音楽の必要性を感じる親が増加した。特に学校の授業以外での音楽に触れる機会を望む親は11ポイント増加した。



あなたのお子さんにとって、学校の授業以外に音楽に触れる機会は必要だと思いますか?

N=500

	必要である	どちらともいえない	必要でない	合計			
2008年	332	66.4%	150	30.0%	18	3.6%	500
2010年	387	77.4%	96	19.2%	17	3.4%	500



TOA Music Workshop について

TOA株式会社では、社会貢献・メセナ活動の一環として、小中学生を対象に音楽を主とした体験型のプログラム TOA Music Workshop を2005年度より開催しています。音楽を自由に聴き、感じ、体で表現する体験を通じ、子どもたちの感性を刺激し、創造力を高めて新たな価値観を得る機会の提供を目的としています。生徒・児童は、総合学習などの授業の一環として、学校の学年単位で参加しています。

参加した子どもの感想

- 最初、体育館にはいったとき、不思議な音が聞こえたので、とってもワクワクしました。踊りを踊ったときは、もう、心の中にリズムの花が咲いたみたいでした。
- こころがうきうきしたり、リラックスできるような美しい音色でした。寝転び、目を閉じると心に音楽がしみわたり、体にじいんと響いてきました。新しい音楽の魅力がすごく感じられた一日でした。
- 毎日の生活がいろいろな音で構成されていることに気付いた。
- 自分の耳に流れて来る音だけで自分で想像していたら、あたかも目の前に楽器があるように見えてきたので不思議でした。それに演奏している人の表情など見なくても、心から「音楽」というものを楽しんでいると思いが伝わってきました。ちょっとだけ楽しみ方がちがうだけで「音楽」という文字通り音を楽しむという事につながっているという感じ方になりました。

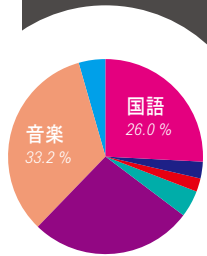


子どもが生きていく上で最も必要な力は「心の豊かさ」が5割を超える。「心の豊かさ」を育てることに役立つ教科は「音楽」が3年連続でトップ。

他人を思いやる力よりも、不況を生き抜く力を重要視する親が増加
 子どもが生きていく上でどんな力が必要だと思うかを親に尋ねたところ、3年連続で「心の豊かさ」が5割を超えトップになったが、回答率は昨年と比べて3ポイント低下した。心の豊かさを育てることにもっとも役立つと思う科目は「音楽」が最も高く、「図工・美術」「国語」が続いた。厳しい景気環境が続く中、他人を思いやる力である「繊細な感受性」「心の豊かさ」と答えた親が減り、厳しい経済環境の中を生き抜く力である「強い信念」「論理的に考える力」「高収入」と答えた親が増加した。

心の豊かさを育てることにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか？

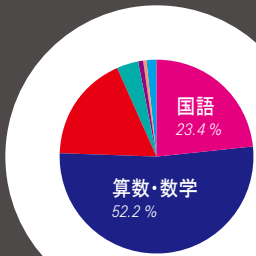
N=500



国語	130	26.0%
算数・数学	14	2.8%
理科	11	2.2%
社会	22	4.4%
図工・美術	135	27.0%
音楽	166	33.2%
外国語	22	4.4%
全体	500	100%

論理的に物事を考える力を身につけるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか？

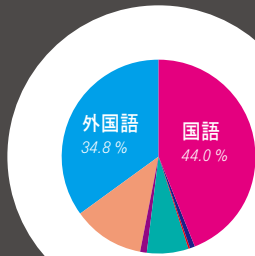
N=500



国語	117	23.4%
算数・数学	261	52.2%
理科	89	17.8%
社会	19	3.8%
図工・美術	3	0.6%
音楽	3	0.6%
外国語	8	1.6%
全体	500	100%

人とコミュニケーションする能力を高めるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか？

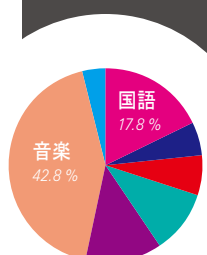
N=500



国語	220	44.0%
算数・数学	4	0.8%
理科	2	0.4%
社会	34	6.8%
図工・美術	6	1.2%
音楽	60	12.0%
外国語	174	34.8%
全体	500	100%

日々の生活を楽しく暮らすのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか？

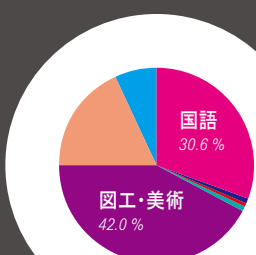
N=500



国語	89	17.8%
算数・数学	28	5.6%
理科	33	6.6%
社会	53	10.6%
図工・美術	64	12.8%
音楽	214	42.8%
外国語	19	3.8%
全体	500	100%

表現する力を身につけるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか？

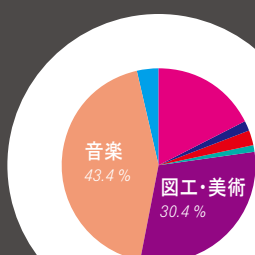
N=500



国語	153	30.6%
算数・数学	5	1.0%
理科	2	0.4%
社会	5	1.0%
図工・美術	210	42.0%
音楽	91	18.2%
外国語	34	6.8%
全体	500	100%

繊細な感受性を育てるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか？

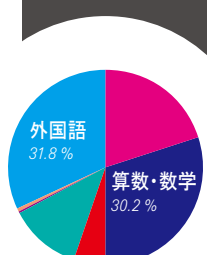
N=500



国語	88	17.6%
算数・数学	8	1.6%
理科	13	2.6%
社会	5	1.0%
図工・美術	152	30.4%
音楽	217	43.4%
外国語	17	3.4%
全体	500	100%

競争社会を生き抜くためにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか？

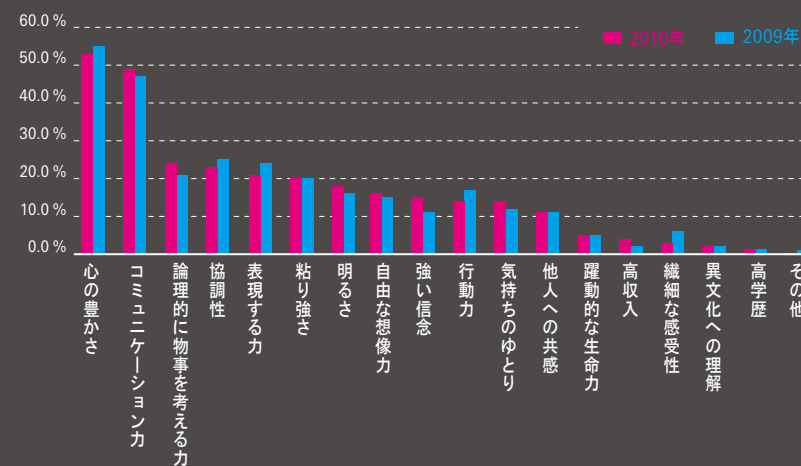
N=500



国語	100	20.0%
算数・数学	151	30.2%
理科	26	5.2%
社会	60	12.0%
図工・美術	1	0.2%
音楽	3	0.6%
外国語	159	31.8%
全体	500	100%

子どもが生きていくうえで、どんな力が必要だと思いますか？(3つまで) *空欄は該当する科目なし

順位		N	2010年	2009年	前年との差	1位	2位	3位
1	心の豊かさ	264	52.8%	55.4%	-2.6	音楽	図工・美術	国語
2	コミュニケーション力	244	48.8%	47.2%	1.6	国語	外国語	音楽
3	論理的に物事を考える力	119	23.8%	20.6%	3.2	算数・数学	国語	理科
4	協調性	117	23.4%	24.8%	-1.4			
5	表現する力	105	21.0%	24.4%	-3.4	図工・美術	国語	音楽
6	明るさ	100	20.0%	20.2%	-0.2			
7	粘り強さ	93	18.6%	16.2%	2.4	音楽	国語	図工・美術・社会
8	自由な想像力	79	15.8%	15.4%	0.4	図工・美術	理科	国語
9	強い信念	77	15.4%	11.6%	3.8			
10	行動力	70	14.0%	17.0%	-3.0			
11	気持ちのゆとり	68	13.6%	11.8%	1.8			
12	他人への共感	55	11.0%	11.0%	0.0	理科	図工・美術	国語
13	躍動的な生命力	23	4.6%	5.2%	-0.6			
14	高収入	22	4.4%	1.8%	2.6	外国語	算数・数学	国語
15	繊細な感受性	14	2.8%	6.2%	-3.4	音楽	図工・美術	国語
16	異文化への理解	11	2.2%	2.2%	0.0	外国語	社会	音楽
17	高学歴	7	1.4%	1.4%	0.0	国語	算数・数学	社会
18	その他	1	0.2%	1.0%	-0.8			
	全体	500	100.0%	100.0%				



CHECK!

親が、子どもが生きていくうえで最も必要だと考える力は3年連続で「心の豊かさ」だった。不況が続く中、他人を思いやる力よりも、不況を生き抜く力を重要視する親が目立った。最も増加率が高かったのは「高収入」で、最も減少率が高かったのは「繊細な感受性」だった。

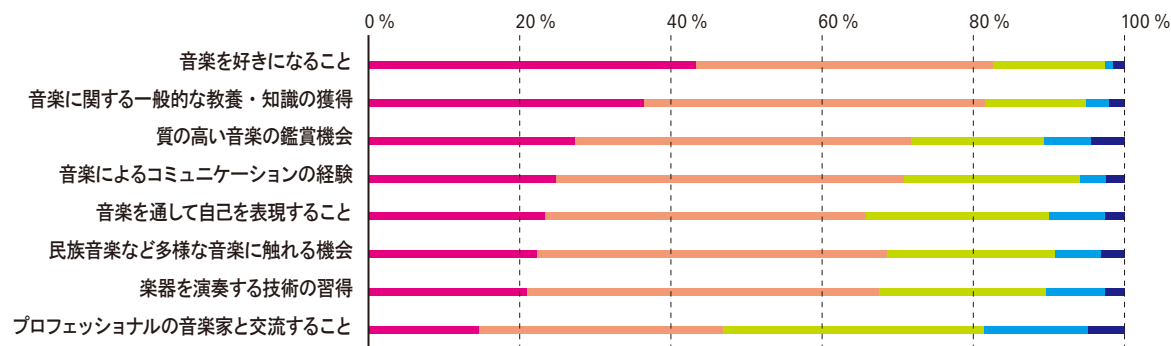
参考

学校の音楽教育にどのようなことを期待しますか？(単一回答)

CHECK!

最も期待の高かったのは音楽を「好きになること」。3年前の調査よりも期待する人が顕著に増えたのは「教養・知識」「演奏する技術」で、学校の成績に結び付く項目の増加が目立った。

	期待する	どちらかといえば期待する	どちらともいえない	どちらかといえば期待しない	期待しない	合計
音楽を好きになること	217	196	74	5	8	500
音楽に関する一般的な教養・知識の獲得	182	236	67	15	10	500
質の高い音楽の鑑賞機会	137	222	88	31	22	500
音楽によるコミュニケーションの経験	124	230	117	17	12	500
音楽を通して自己を表現すること	117	212	121	37	13	500
民族音楽など多様な音楽に触れる機会	112	231	111	30	16	500
楽器を演奏する技術の習得	105	233	110	39	13	500
プロフェッショナルの音楽家と交流すること	73	162	172	69	24	500



NPO法人 子どもとアーティストの出会い

理事長:井手上春香

厳しい時代でも、心に豊かさを

本年度調査の特徴的な結果は、保護者が望む子どもの「生きる力」として、「論理的に物事を考える力」「高収入」などへの期待値が向上したことと言えます。長引く不況、厳しい経済環境の中を生き抜く力を、より直接的なスキルを求める保護者の心理は、理解に難くありません。

しかし、何より着目しなければならないのは、最も望まれている「生きる力」が、3年連続して「心の豊かさ」であったこと。そして、その力を育てる科目として「音楽」が、やはり1位であったことです。どのような環境下にあっても、子どもの心を豊かに育みたいと願う保護者の思いに揺るぎはないことに、芸術活動に携わるものとして強い感動を覚えます。音楽によって得られる想像力、豊かな感性、自己肯定感、他者と共感する力は、経済的な豊かさや社会的安定を得にくくなった時代にこそ、子どもが獲得しなければならない力だとあらためて強く感じています。

一方で、子どもに芸術文化に接する機会を与えたいと考えている保護者が約9割を超えている半面、実際に与えることが出来た保護者は、平均で3割以下に留まる結果となりました。家庭が芸術文化にかけられる支出が減少傾向にある現状と合わせて考えても、保護者の願いとは裏腹に、子どもたちの芸術体験は決して充実しているとはいえない状況であることが浮き彫りになりました。

新たな芸術文化の担い手 — 企業メセナとアートNPO —

こうした現状に呼応するように、子どもたちの芸術体験を支える社会的基盤が、整備されつつあります。特に着目すべきは、企業の文化支援活動であるメセナ活動、市民活動であるNPOなどの「民の力」です。

最新の調査¹では、企業のメセナ活動において「青少年への芸術文化教育」を重視する企業が37.8%にのぼり、1997年の調査と比べて29%も増加していることが明らかになりました。CSRの浸透に伴い、地域に根ざした地道な取り組みに着手する企業が増えつつあり、その中で子どもたちへの活動に多くの企業が注目している現状が見てとれます。加えて、NPOのうち芸術分野の活動を行うアートNPOの設

立件数は、2008年9月で3,551法人にのぼっています。また、芸術ジャンルにおいては、とりわけ音楽分野の充実ぶりが顕著です。企業メセナにおいては音楽の活動実施企業は39.4%で最多。加えて、アートNPOのうち音楽分野の活動を行っている団体は52.3%にのぼり、他の芸術ジャンルと一線を画すことが報告されています²。

こうした現状は、地域に根ざした良質な芸術プログラムを生み出す大きな可能性を秘めています。子どもたちの芸術体験を支える民の力は、新たな芸術文化の担い手として注目すべき存在に成長しつつあると言えます。

教育に、民の力を

教育を取り巻く環境変化として注視すべきは、2011年度から施行される新学習指導要領です。算数・理科の授業時間の増加、小学校での外国語教育の導入など、より実践的な教科カリキュラムがスタートし、相対的に芸術科目への時間配分が減少することが懸念されています。教育環境の変化、保護者の願い、そして、願いと乖離した現実。こうした時代にあつてこそ、民の力による教育支援が必要ではないでしょうか。子どもたちの教育は、学校だけで行うべきものではありません。家庭や学校教育現場で心の豊かさを育むことはもちろん、地道ながら子どもたちへの音楽体験の機会を創出している民の力が、学校や地域社会に受け入れられ、積極的に活用されていくこと。それこそが、この厳しい状況下においても芸術文化の活動を途絶えさせることなく発展させ、社会全体で子どもたちの豊かな心を育み、次なる豊かな時代を創出することに繋がると信じています。

1:2009年度「メセナ活動実態調査」社団法人企業メセナ協議会調査

2:「アートNPOデータバンク2008」NPO法人アートNPOリンク調査

TOA Music Workshop 2010

こころのリズム、カラダのきもち

新しい自分、発見。無料ワークショップ参加校募集!

韓国伝統打楽器のチャンゴと、ふたりのダンサーによる音楽ワークショップ、開催!

ひとりひとり違うリズム。ひとりひとり違う表現。まったく違う個性をもった子どもたち、他の人とは違ってあたりまえ。子どもたち100人には、100通りの音楽があります。

勇気をだして自由に表現すれば、子どもたちの音楽は、こんなにも素晴らしい。それは今まで、子どもたち自身も知らなかったこと。音楽を通じて、新しい自分自身にきっと出会える。

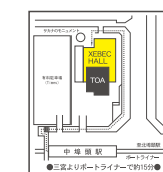
「音楽で心を解放し」「感じたことを身体で表現するとともに、他者の表現を知ること」「非日常空間で、即興のリズムや動きから自由に新しい音楽をつくりだすこと」をテーマに、音楽ワークショップを実施します。子どもたちひとりひとりの感性を引き出し、音楽に触れる喜び・表現する楽しさを体験して頂きます。皆様のご参加、お待ちしております。

日程 2010年9月～2011年3月までの期間で調整の上確定

参加費無料 対象:小学校3年生～小学6年生
時間:2時間程度 参加人数:各回200名以内
会場:参加校校内施設
募集校:2校 ※人数によっては複数校共同開催も可

アーティスト 高庚範(チャンゴ奏者)
隅地菜歩+阿比留修一(セレノグラフィカ)
コンテンポラリーダンス

主催 TOA株式会社
企画制作 NPO法人 子どもとアーティストの出会い
株式会社ジーベック



XEBEC HALL
神戸ポートアイランド
ジーベックホール
〒650 神戸市中央区港島中町1-1
TOAビル TEL. 078-303-5600



こころのリズム、 カラダのきもち

新しい自分、発見。無料ワークショップ参加校募集！

韓国伝統打楽器のチャングのリズムをベースに、ふたりのコンテンポラリーダンサーによる音楽ワークショップを行います。ダンサーのリードにより、子どもたちが自由に身体を動かし、リズムをつ身体で表現することを体験します。ワークショップの最終段階では、音響・照明等の演出を加え、非日常感の中で「即興ライブパフォーマンス」として表現します。

コンテンポラリーダンスとは、型や形式にとらわれない、自由な動き・発想からつくられるダンスのこと。

※ 他校の教員や音楽関係者の見学、メディアによる取材が可能な、公開ワークショップとさせていただきます。



高 庚 範



撮影：川上 坐

隅地 菜歩 + 阿比留 修一

アーティストプロフィール

高 庚 範 コウ・キョンボン

チャング奏者

1998年、韓国伝統打楽器グループ「Shifa」を結成後、様々なイベントに出演。2002年、韓国伝統音楽をベースとしたユニットチーム「SANTA」に参加。

国内外で活動を行う。

また、大阪韓国文化院主催『2008 大阪府教職員研修』で伝統音楽担当講師をつとめるなど、韓国伝統音楽を広めるワークショップ等を精力的に行う。

http://music.geocities.jp/osaka_chango/

隅地 菜歩 + 阿比留 修一 すみじ・まほ + あびる・しゅういち

セレノグラフィカ|コンテンポラリーダンサー

1997年、隅地 菜歩(ダンサー、振付家)と阿比留 修一(ダンサー)によって結成。なにげない動きを身体操作の観点で捉え直し、多彩な解釈を導き出す作品が持ち味。近年は幅広いジャンルの表現者とのコラボレーションを通じ、デュエットの枠を超えた創作を展開している。国内外のダンス公演、アウトリーチ活動、一般・子ども向けワークショップ活動多数。

<http://www.selenographica.net/>

申込方法

お申込みご希望の方は必要事項（学校名、学年、参加人数、希望時期、学校住所、担当者名、電話、Fax、e-mail）をご記入の上、郵送・FAXまたはe-mailにてお申込みください。

- ・申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。
 - ・希望時期は目安の日程を第2希望までご記入ください。ご参加頂けることが決定した段階で、調整の上確定させていただきます。
 - ・参加学校施設内でワークショップを実施する場合は、開始時間の約2時間前より、使用会場にて機材等のセッティングをさせていただきます。
- また、ワークショップ終了後、現状復帰に30分～1時間程度かかります。

申込締切 || 2010年5月28日 金曜日

お申込み・お問い合わせ先

NPO 法人子どもとアーティストの出会い

担当：井手上春香

〒604 8222 京都市中京区観音堂町 466 みやこ3 階

電話番号 || 090-6731-8598

ファクシミリ || 075-231-8607

e-mail || idegami@npo-kad.com



TOA 音楽と教育の意識調査 2010

主催 || TOA 株式会社

監修 || NPO 法人子どもとアーティストの出会い

調査設計 || NPO 法人 recip

協力 || NPO 法人アート NPO リンク

印刷 || 株式会社エスコアハーツ

発行 || 株式会社 PR リンク

発行日 || 2010年4月

本冊子についてのお問合せ先

NPO 法人子どもとアーティストの出会い

〒604 8222 京都市中京区観音堂町 466 みやこ3 階

電話番号 || 090-6731-8598

ファクシミリ || 075-231-8607

e-mail || idegami@npo-kad.com

担当 || 井手上春香

TOA Music Workshop の歩み

2005 || 小中学生のための“リズムと身体表現” ||

参加アーティスト | 金子雄生 || トランペット奏者、民族音楽家

実施日程 | 2005年9月9日、10月26、27日、11月10、11日、2006年2月15日

参加者数 | 計 358 名

2006 || ぼくを鳴らそう、わたしを聴こう ||

参加アーティスト | 高岡大祐 || チューバ奏者、音楽家

| 櫻井響 || ヒューマン・ビート・ボクサー

実施日 | 2006年9月15日、11月9日、11月15日、12月13日

参加者数 | 計 400 名

2007 || もっとひらいて！もっとはずんで！ ||

参加アーティスト | HANA★JOSS || ジャワガムランユニット

| UOOMOO || 民族楽器ユニット

実施日 | 2007年11月5日、2008年1月22日、3月4日

参加者数 | 計 234 名

2008 || もっとひらいて！もっとはずんで！ ||

参加アーティスト | HANA★JOSS || ジャワガムランユニット

| UOOMOO || 民族楽器ユニット

実施日 | 2008年11月5日、11月6日、12月12日

参加者数 | 計 517 名

2009 || こころのリズム、カラダのきもち ||

参加アーティスト || 高庚範 || チャング奏者

| 隅地 菜歩 + 阿比留 修一 || セレノグラフィカ | コンテンポラリーダンサー

実施日 | 2009年10月23日、11月19日、12月12日

参加者数 | 計 245 名